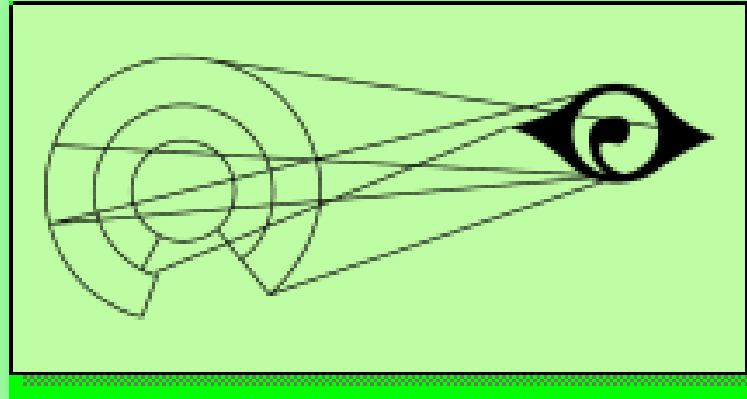


《 説明 》

共同研究について



期日 令和6年(2024年)8月29日(木)

場所 オホーツク・文化交流センター

北海道教育研究所連盟共同研究推進委員会

内容

- 1 北海道教育研究所連盟（道研連）
共同研究について
- 2 第18次共同研究の概要について
- 3 1年次の成果と2年次の取組について

Ⅰ 北海道教育研究所連盟（道研連） 共同研究について

道研連共同研究とは

- 昭和44年に第1次共同研究が開始
- 道研連に加盟する加盟機関の所員等
によって構成

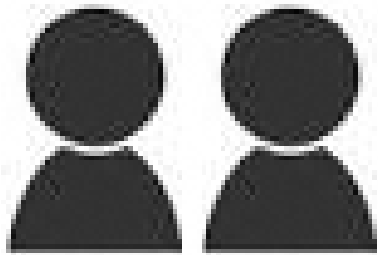
共同研究推進委員（12名）が推進



全ての加盟機関が対象

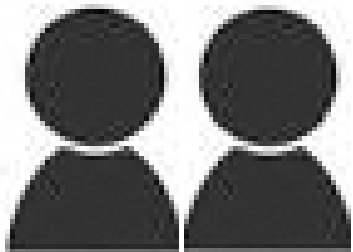
共同研究推進委員の選出(H27~)

全道各地の
所員等12名

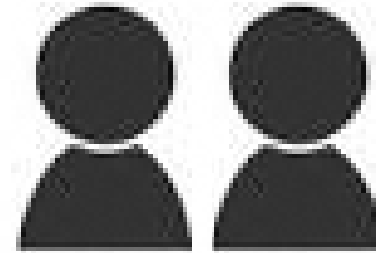


道央

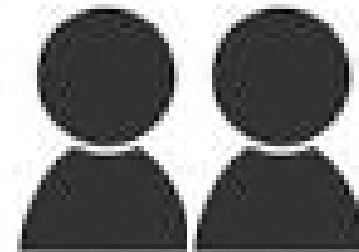
道南



道北



道東



道研2 札幌1 道教大1

令和6年度の共同研究推進委員

- | | |
|------------------------------|----------|
| ○石狩教育研修センター | 武田 寛史 氏 |
| ○空知教育センター | 寺田 恵 氏 |
| ○上川教育研修センター | 林 尚輝 氏 |
| ○宗谷教育研修センター | 石戸谷 和利 氏 |
| ○渡島教育研究所 | 石井 望 氏 |
| ○胆振教育研究所 | 黒川 知恵 氏 |
| ○網走地方教育研修センター | 米倉 完 氏 |
| ○根室教育研究所 | 水口 拓真 氏 |
| ○札幌市教育センター | 横内 のぞみ 氏 |
| ○北海道教育大学へき地・
小規模校教育研究センター | 芳賀 均 氏 |

●北海道立教育研究所から2名

2 第18次共同研究の概要について

2 第18次共同研究の概要について

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

【ポイント】

- ✓ これらの資質・能力を育むためには、**新学習指導要領の着実な実施**が重要
- ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用**が必要不可欠

全ての子どもたちの可能性を引き出す
個別最適な学びと、協働的な学び

2 第18次共同研究の概要について

2020年代を通じて実現を目指す学校教育 「令和の日本型学校教育」の姿

＼全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現／



子供の学び

- ✓ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
- ✓ 各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている

#個別最適な学び #協働的な学び
#主体的・対話的で深い学び #ICTの活用



教職員の姿

- ✓ 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
- ✓ 子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
- ✓ 子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている

#教師の資質・能力の向上 #多様な人材の確保 #家庭や地域社会との連携
#学校における働き方改革 #教職の魅力発信 #教職志望者の増加



子供の学びや 教職員を支える環境

- ✓ ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている
- ✓ 新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている
- ✓ 人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている

#ICT環境の整備 #学校施設の整備
#少人数によるきめ細かな指導体制

2 第18次共同研究の概要について

第18次共同研究テーマ



「正解主義」や「同調圧力」への
偏りからの脱却

一人一人の子供を主語にする
学校教育の実現



「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させる／
新しい時代の学校教育の実現

一人一人の子どもを主語にする
学校教育の実現に向けて

2 第18次共同研究の概要について

一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて

【ねらい】

各教育研究所・研修センターがより連携・協働できる体制を整備し、学校支援のために活用する、個別最適な学びと協働的な学びの実践事例の収集・提供をすることにより、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての教職員の能力の向上に資する。

【研究内容1】

全ての子どもたちの可能性を引き出す

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

【研究内容2】

子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

道研連加盟機関である各教育研究所・研修センターの

3 1年次の成果と2年次の取組について

一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

子どもの主体的な学びを
支援する伴走者として

研究内容 1

全ての子どもたちの可能性を引き出す
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

R5

【1年次のゴール】

- 収集した実践事例(授業のイメージ)の共有

集める

研究内容 2

子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

R5

【1年次のゴール】

- 連携・協働の在り方について共有

第1回

1年次の研究内容・
収集した実践事例(授業のイメージ)の共有

授業の構想

第2回

授業構想の協議

授業の実践

第3回

実践事例の協議・リーフレット(案)の作成

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業の実践事例のポイントを共有し、それらを踏まえた授業の構想・実践を通して、実践事例の収集・充実を図る。

R6

【2年次のゴール】

- 1年次に収集した事例の評価・改善・実践

磨く

第1回

連携・協働した事業の計画

実施方法の検討

第2回

連携・協働した事業の実施方法の確認

事業の実践

第3回

連携・協働した事業の実践交流・検討

- 各教育研究所・研修センターの連携・協働の在り方を計画・実施し、実践の成果や課題を交流・協議する。

ICTの効果的な活用

R6

【2年次のゴール】

- 複数の加盟機関が連携・協働した事業の実践・交流(道研連研究発表大会等)

広める

【3年次のゴール】

- 実践事例の普及・還元(道研連Webページの掲載・リーフレット等配付)

R7

【3年次のゴール】

- 持続可能な連携・協働体制の構築に向けた改善・普及

一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

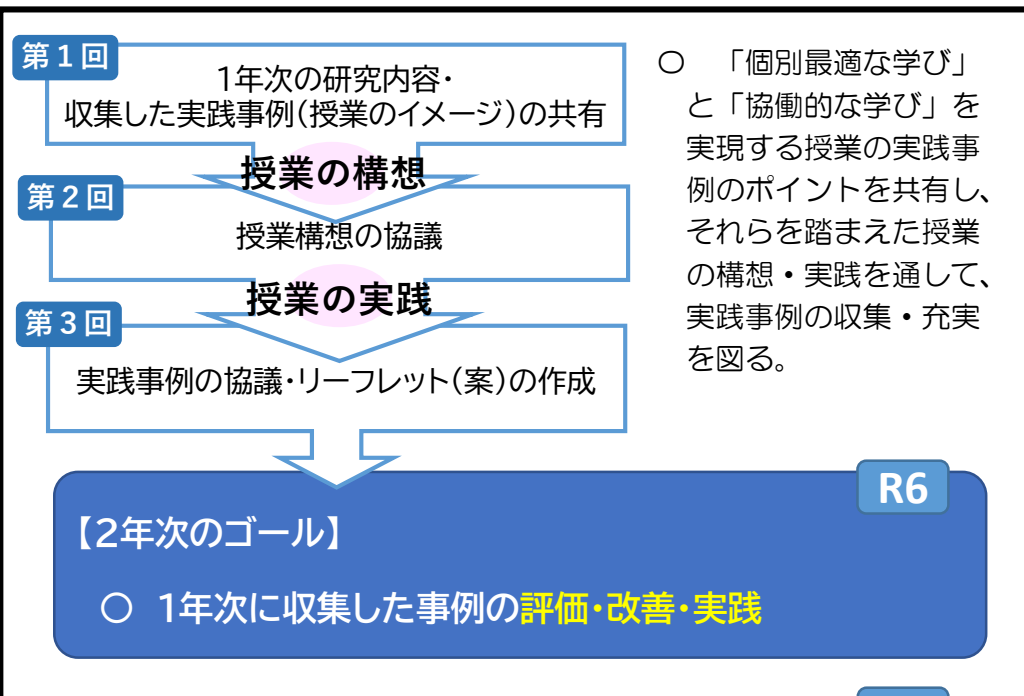
子どもの主体的な学びを
支援する伴走者として

研究内容 1 全ての子どもたちの可能性を引き出す
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

R5

【1年次のゴール】

- 収集した実践事例(授業のイメージ)の共有



R7

【3年次のゴール】

- 実践事例の普及・還元
(道研連Webページの掲載・リーフレット等配付)

3 1年次の成果と2年次の取組について

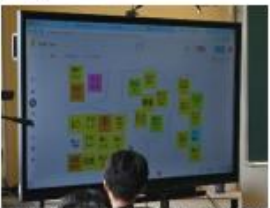


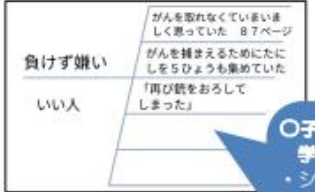

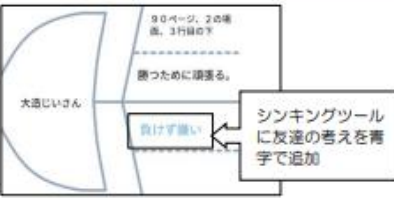
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実に向けて



- 授業において大事にしたいこと
 - A 子どもが「自分（たち）で学び取る」授業
 - 目的に合わせた端末の使い方や学習スタイルの選択等、
学び方を学べる工夫
 - B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業
 - 必要感のある課題設定や単元（題材）計画、教師の発問や
声かけの工夫
 - C 子どもが安心して、進んで取り組める授業
 - 学習の土台づくり（望ましい人間関係の構築、学習ルール
や基本的・基礎的な知識及び技能、ICTのスキル等）

3 1年次の成果と2年次の取組について

十勝教育研究所

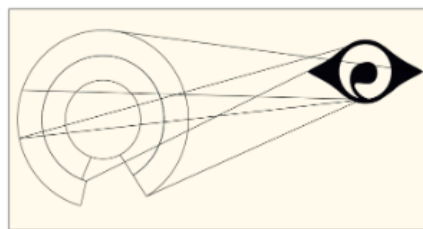
石狩教育研修センター

小学校第5学年 国語科「大造じいさんとがん」	
本時の目標	評価規準
登場人物の特徴をまとめる活動を通して、物語全体の大まかな内容を理解する。	【思・判・表】 ・大造じいさんの人物像について、描写を基に捉えている。(ロイロノート)
具体的な子どもの姿 学習課題(◆) 主な学習活動(○)	教師の手立て 対話の視点 振り返りの視点
<p>○ 前時の学習を振り返り、本時の学習を見通す。</p>  <p>【Jamboardを活用した振り返り】</p> <p>自分の考えをより詳しく伝えるためにどうすればいいと思う?</p>  <p>教科書に書いている言葉を使った方がいいと思う。</p>	<p>・前時の学習で、大造じいさんの人物像を「〇〇な人」と表したことを振り返り、その理由を本時で伝え合うことを確認する。</p>
<p>○ 本時の課題を確認する。</p> <p>◆課題 大造じいさんの人物像について、理由をはっきりさせて考えを伝え合おう。</p>	
<p>○ 登場人物の特徴について、ロイロノートにまとめる。</p> <p>優しい人だな。 優しい?怖い?</p>  <p>何度も作戦を考えているから...</p>	<p>・くま手チャートやフィッシュボーン図など、自分の考えをまとめやすいシンキングツールを各自で選んでまとめるようにする。</p>  <p>【シンキングツールに整理した考え】</p> <p>○子どもが自分たちで学び取る授業 ・シンキングツール、対話する相手、個人思考と対話のタイミングなどを子どもが自己決定し、学習スタイルを選択できるようにした。</p>
<p>○ 友達の考えから、詳しく知りたいと思ったものをシンキングツールに書き加える。</p> <p>自分の考えと比べて「違うな」「そうだな」という考えを増やしてください。</p>  <p>この後、どうしてそう考えたのかを交流してもらいます。</p>	<p>・「違うな」「そうだな」という視点で、気になった考えを書き加えることを確認する。</p>  <p>【シンキングツールに友達の考えを追加】</p>

小学校第2学年 国語「まとまりに分けて、お話をかこう」	
目標:お話の「中(できごと)」を考え、簡単な言葉や文で表すことができる。	
<p>○子どもが自分たちで学び取る授業 ・UDL(学びのユニバーサルデザイン)に基づいて、学習スタイルを選択できるよう、学習資料や学習の場を複数準備し、子どもに提示した。</p>	
学習資料や材料の工夫	場の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 既習の物語を活用したアナザーストーリー 物語定番できごとシート(出来事一覧表) 「はじめ」「中」「おわり」ごとに色分けした短冊や付箋 アイデアノート(Padletで共有) 	<ul style="list-style-type: none"> しゅざいの場(学習資料のある場所) 話し合いの場(相談できる場所) もくもくの場(静かな場所)
<p>「自信がないから得意な〇〇さんの近くで」 「しゅざいの場でネタ探ししよう」 「定番の出来事を使おうか」 「好きな物語の出来事をまねてみよう」 「みんなが書いているものを見せてもらおう」</p> 	
<p>小学校第4学年 体育「跳び箱運動」</p> <p>目標:台上前転の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、回転系の基本的な技を身に付けることができる。</p>	
学習資料や材料の工夫	場の工夫
<ul style="list-style-type: none"> 動きを細分化した掲示物 端末での動画撮影(タイムシフトカメラ) 動画でのポイント解説 	<ul style="list-style-type: none"> レベル別に設定した複数の練習場所(感覚づくり、踏み切り、回転、着地、台上前転、首はね跳び)
 <p>○子どもが自分たちで学び取る授業 ・UDL(学びのユニバーサルデザイン)に基づいて、学習スタイルを選択できるよう、学習資料や学習の場を複数準備し、子どもに提示した。</p>	

3 1年次の成果と2年次の取組について

北海道教育研究所連盟



実践事例バンク

メニュー

トップページ
道研連概要
共同研究 ▼
実践事例バンク
指導案バンク >
研究発表大会
学習会・所長研修会
加盟機関一覧
過去の資料
リンク

ア) 単元(題材)の流れが分かるもの

No	学年	教科 「単元(題材)名」	事例の特徴			作成機関		
			A	B	C			工夫
1	小学校 第6学年	算数 「円の面積」	○	○		・デジタルとアナログの融合 ・学習方法の自己選択	室蘭市 教育研究所	資料
2	中学校 第2学年	理科 「気象とその変化」	○			・生徒の振り返りを促す工夫 ※No6の事例と繋がっています	留萌管内 教育研究所	資料

イ) 一単位時間の流れが分かるもの

No	学年	教科 「単元(題材)名」	事例の特徴			作成機関		
			A	B	C			工夫



一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

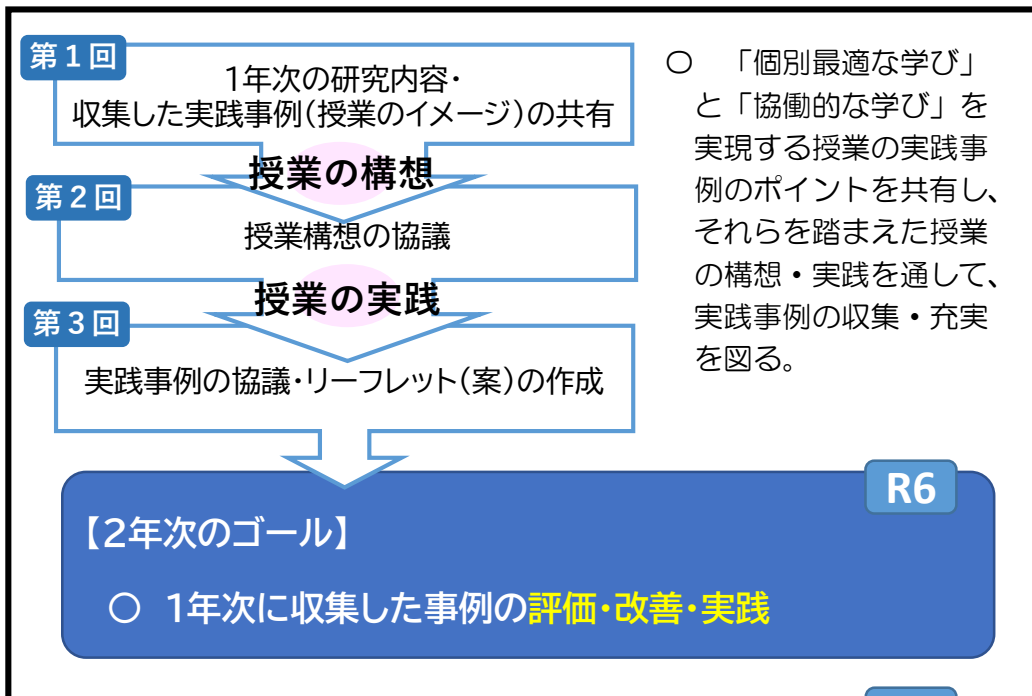
子どもの主体的な学びを
支援する伴走者として

研究内容 1 全ての子どもたちの可能性を引き出す
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

R5

【1年次のゴール】

- 収集した実践事例(授業のイメージ)の共有



R6

【2年次のゴール】

- 1年次に収集した事例の評価・改善・実践

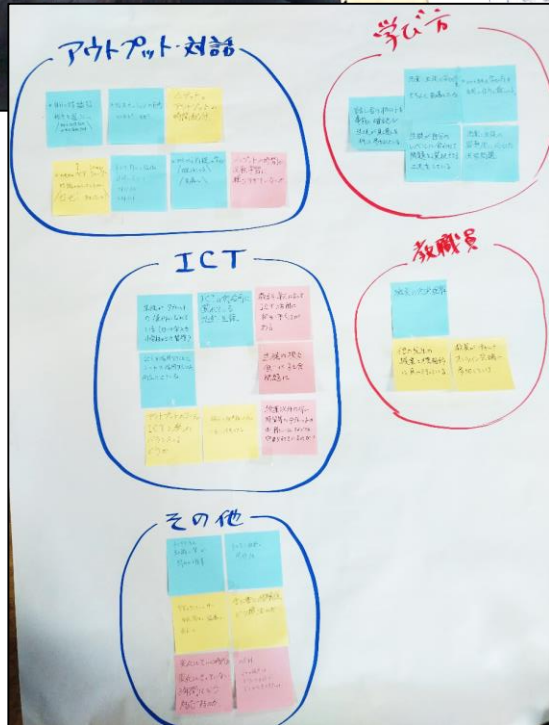
R7

【3年次のゴール】

- 実践事例の普及・還元
(道研連Webページの掲載・リーフレット等配付)

3 1年次の成果と2年次の取組について

第1回共同研究推進委員会
(5月17日 北海道立教育研究所)



3 1年次の成果と2年次の取組について

【道研連夏季所員学習会】7月30日(火)開催

学習会のねらい

教育研究所・センター所員等の現状について交流を行い、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業について理解を深めるとともに、研修したことを域内の学校に広げるための研修等に役立てる。

内 容

【講義】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業の在り方について (50分)

【講師】北海道教育大学旭川校准教授 山中 謙司 氏
内容

- 今、求められている授業とは
- 授業改善のポイント

【振り返り①】講義内容に係る振り返り (5分)
内容

- 講義を踏まえ、新たにわかったこと

【休憩】(10分)

【交流・協議】「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業について (50分)
内容

- 振り返り①に係る交流
- 授業改善の方策に係る協議

【まとめ】(10分)

北海道教育大学旭川校准教授 山中 謙司 氏

【振り返り②】学習会での学びを各教育研究所やセンターの取組につなげるために (20分)

- 所員としての取組

ねらいの達成に向けた方策

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業の在り方や授業改善のポイントについて考えます。

講義内容を踏まえ、自身の理解を整理します。

交流や授業改善の方策に係る協議を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業についての理解を深め、自身の管内における授業改善の方向性について考えます。

本学習会で学んだことを、普及発信など、今後の取組にどう生かすか、どう繋げていくかを考えます。

一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

子どもの主体的な学びを
支援する伴走者として

研究内容2 子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

R5

【1年次のゴール】

- 連携・協働の在り方について共有

第1回

連携・協働した事業の計画

実施方法の検討

第2回

連携・協働した事業の実施方法の確認

事業の実践

第3回

連携・協働した事業の実践交流・検討

- 各教育研究所・研修センターの連携・協働の在り方を計画・実施し、実践の成果や課題を交流・協議する。

ICTの効果的な活用

R6

【2年次のゴール】

- 複数の加盟機関が連携・協働した事業の**実践・交流**（道研連研究発表大会等）

R7

【3年次のゴール】

- 持続可能な連携・協働体制の構築に向けた**改善・普及**

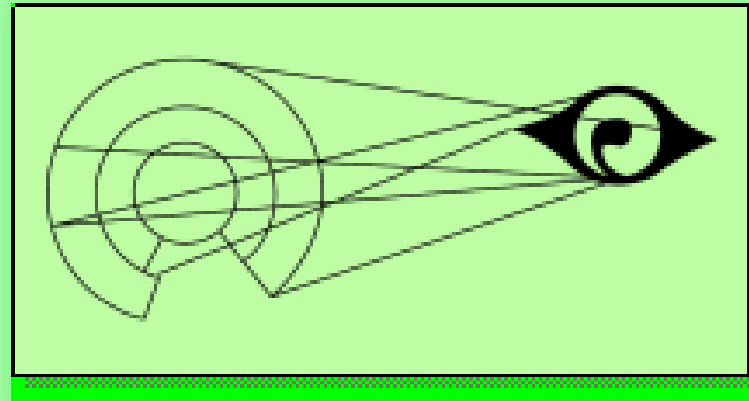
3 1年次の成果と2年次の取組について

年間スケジュール

5月17日(金)	【第1回 共同研究推進委員会】 ※集合開催
6～10月	・授業の構想 ・各教育研究所・研修センターに蓄積された実践等の実態の把握
7月30日(火)	夏季所員学習会
8月29日(木) 8月30日(金)	【第79回北海道教育研究所連盟研究発表大会(網走大会)】 ・研究発表
10月9日(水)	【第2回 共同研究推進委員会】 ※オンライン ・授業構想の検討 ・複数の研究所・センターが連携した取組に係る協議
11月21日(木)	冬季所員学習会
11月～12月	・授業の実践
1月10日(金)	【第3回 共同研究推進委員会】 ※オンライン ・収集した実践事例を道研連加盟機関に共有 ・連携・協働体制や連携した実践内容の方向性の確認 ・第18次共同研究3年次に向けて
2月5日(水)	【連盟委員会】 R6事業報告 R7事業計画提案

《 説明 》

共同研究について



期日 令和6年(2024年)8月29日(木)

場所 オホーツク・文化交流センター

北海道教育研究所連盟共同研究推進委員会